漫草

三四

617

温室巻之三

不嫉妒毒報

不嫉妒名禄之源也人能不嫉妒則福慧日增矣嫉妒之人其心如蛇蠍其口如刀劍其氣乃毒氣也其毒之烈有不可言者嫉妒之人其心如蛇蠍其口如刀劍其氣乃毒氣也其毒之烈有不可言者

よりてんきの毒心たのしく不絶
又行きの貴き淫と感じたものれの姫とくるて濫乱とやよ
ありのあり業平ぬんらんなるもその妻ぬ不絶
歟動・そして何かひとやめられるとあれ是二不絶の
法その　ありて不絶の淫もさうあり前世いかが因和睦して
妻門人福ひよ強ぬそんしてやうめてこれものありこれ不
思の法そぬ二ありて不絶の本仏あぬくうな事いまも是
とありて世るふもとおもて未代は四つかくそ
の中二毒ぬ煽ぬとえられ的淫仏性あぬらうあして現世
安楽結生若下ぬ法垂あり不絶の法そぬこあり和
又如来ぬ地心あいくくまと世ぬ

猶ふ俺一き女うりすさあ
ひあまたその妻そるりのこをぬ毒をひんまは奥さめ和
ろくくて毒蛇乃ごとくおぬえめまに法井ふ離別乃
ごとひと如ぬ吾家ふ離別をいとよんよりおこりてこの
地に久離別乃害ふあて是ぬ毒ぬ換うぬ一なわ
ぬ毒の地心ありまつ家内和睦をんまの
のこなるべぬ如毒乃悪行ぬそのむくひ蓮とめて
まて成ぬ井男をおやぬ毒蛇となるこも成いこ
ふ孫を滅ぬ一家門ぬあれよりあるこ
き如毒乃損うぬ二なり如毒の蛇ぬてかけて
そその妻ふあるとふうと俺ふ一のこにあ世ぬ

繼尊 卷之三

ふとそこへ妻の名をよび狙とけがねかまえめきハ明法師性よめそ書りむとをかげ焦熱へろくろひよこつこ當まてへ地獄のせめ乃ごきかてこりとそうこれ妬毒の報ひの三ぎりとうまれきまし

ありと法よゆくよ妬毒ふ地心やよめてあきまくこ己とものやまくへ人成なやまま事あけくかてへうてこうこ親とまつめをまうこてホ

親よ益おほく妬毒よ損あるきまくへ三毒ふ地心をのつかりえくく不戒の明徳佛性なくこう形へ

ふ鬼藐ら素姑よきこなるく方外を盡せと鬼藐爲ほりこやはうへめまてをを象人。をを記ここちゃもくん

くこて三年ず死めれハひをりずこ此りやを思ふん衛乃ふまて又妻とめとりぬ古郷へを添くかうまこを孫こりその時くまこ形一鬼藐の素ふまこをやて

すこも怒からくきこるく鬼藐ら方へをくりぬ衣服やと書こりハ却てこうく溺へあまりふ舞のふこそきけさくふ妻乃くくへ書鬼あつ

ふこあくりそ凡兄婦まいくく思ふく鬼藐ら素ふ一書ん一てふけるる鬼藐をて小別乃妻とまうけめ

人ハ作ふハありくく畢盤ふまこそ事ありいそこさび取とき

[illegible]のうく今まで[illegible]
[illegible]鮑蘇が妻こそ人々[illegible]は婦人也一夜縁[illegible]
[illegible]丈心ありくなるそこも二[illegible]人なまんじ[illegible]すて[illegible]
[illegible]若狭と尽[illegible]しんする[illegible]なると[illegible]と[illegible]
[illegible]こそ人と順[illegible]とひま夫婦乃ちらそこい[illegible]貞順[illegible]と
[illegible]ていりせ共ちがう[illegible]ありて[illegible]貞順乃[illegible]
[illegible]まうしてかくいりせのちらそ[illegible]専と千[illegible]人の乃て
[illegible]のくなる[illegible]天子[illegible]共[illegible]名[illegible]十二人[illegible]侯[illegible]凡人[illegible]婦[illegible]大[illegible]
[illegible]二人士[illegible]名二人[illegible]由[illegible]礼法[illegible]常[illegible]
[illegible]表[illegible]りの[illegible]押[illegible]りな[illegible]
[illegible]ら七[illegible]去[illegible][illegible]

[illegible]一[illegible]句[illegible]七[illegible]う[illegible]一[illegible]の八[illegible]婦[illegible]不[illegible]
[illegible]なふな紀[illegible]名[illegible]二[illegible]よ[illegible]淫乱[illegible]
[illegible]名[illegible]ふ[illegible]ま[illegible]ひ[illegible]
[illegible]と淫云[illegible]りを[illegible]名[illegible]七[illegible]
[illegible]めすこ[illegible]ぐ[illegible]去[illegible]七[illegible]
[illegible]きた[illegible]ら[illegible]ひ[illegible]
[illegible]今[illegible]く不義[illegible]すめ[illegible]
[illegible]の[illegible]入[illegible]始[illegible]
[illegible]国乃君[illegible]
[illegible]人名女[illegible]
[illegible]ここ[illegible]

とてさまざまにその母をあざむきこひ
ん雖然祖母の命これよりつくめて
歸一人を身として國王乃勅使をうけかまれのう
き号を給ふその後ことに希代不思義うくるあ
なりこれひとへに孝行の不廢乃德あつてうあく
るわ雖人もかくのみつきこまいねうしきこ
と如是孝別不廢乃德ありてとかく紀まで
てをのつうつう分娠りとも
旁ありとのことをかと男ゆうまりもうしか
ざくかの如くのものをこうして生業とこ
あひなきことに奠れりまことに入土まもなう

人乃りこと
或曰七去乃うち悪疾あくまで忠厚乃みち
ふそうこうの如く儒この教の明あるまでここそ
不孝乃罪一なるまでそれ妻一人をもりてい不孝
の罪乃ぐまでまこゆくりもあるまでも
為うしまするとあいあひ他乃婦人をもとめて孫
を續ふとあいあひなまじ妻
うしてさまざまの事ありこと妻
むさきあひあひ聖人乃法よい夫婦一て出ん祖の
君親をあるおこなひてなりいかく
疾ありてい棄乃假乃假をはらむることあひさく

よあ〳〵ゝめ娶(めと)るへ〳〵とのまゝなり是(これ)も久(ひさ)しかるさの又吉(またきち)かさゝき藤(ふぢ)ひあ〳〵だそのあるよ座(ざ)一なるよ
座一かうへすゝむそしてまもなく
浩雲(こうん)の妻の朱氏(しゅし)はしめくれ〳〵ゝ祝(いわ)ひさゝき女也
諸(もろ)もろの妙(たへ)なる紀女(きぢょ)一人(にん)供(ぐ)してゆきゝ
もんうんもゝ〳〵ふとうきんかよろこ
ぶあきこのむらうらるやまの〳〵そう年(ねん)へさくのちろ此女(このおんな)
らめ来(き)そ〳〵きんくけきんあられさあこそめ〳〵里ひ
きとまゝ〳〵おびそ〳〵〳〵くはゝをそこうくはえを
もつてなそけるのくもたくきはけるかほこにはえのあそ
の来りあ〳〵そくきれてまそ〳〵血乃(ち)なすかあ〳〵事(こと)
きそ〳〵こうゝとちのべとをあすよ〳〵ゝきこ
ろ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ

すゝき海一きゝ大名二三十ゝ
げさゝく花をさいなこそりて
きすゝと切り捨りをまてゝ
その頭をすて朱氏の孫
糞をまき紀のまゝ門
やまたの子狂ありて
朱氏の娘毒ころけきこゝ
まつくすゝめきるきろてそのむくひをあつ
一戸と糞乃中へまそゝ彼灵又
むくひぬ海くゝに響乃辞ゝ
ゆくれそろゝれい朱氏もかくむくひるくきる

とのそくまて
の形ひるまゝきゝ
せん人をやまゝをの
灵乃せめきるとき
作井まこゝ甲斐な
事ゝるゝ又せ
教ゑ乃むくひるけ乃形
作の如毒まゝ又
はまそくおそれつゝ
迂王乃石大奴ハ仁海
ゆゝして前妾

ゥ〻う〻京妾擧本名蛭斯乃殷を賊しゝてその酒を
その〻めりかくめてさく不嬴乃酒酣〻うりけまさ
このひ〻ひさ〻酣の楼の男子十人ましてもみけのひ
くをゆゝ武王周公二人のそ聖人ましておりゝまりそれい
殷くよ天下をさもち文王大奴もろともに天ほ氏の妻りとう
けゝまひるそ〻殷くめてさく〻ひろう
よ殷乃ちんゝやうとちんくに殷でかとこゝろるまとも
不嬴の酒よようさくひ殷ひとうゝまゝをま犯ますかさき
きまん周室乃ちんゝやうに文王乃聖徳よようゝ興起
すとゝもとも大奴もち周助そのおすくかうゝすうく
かく乃人さ〻不嬴の酒をゆゝてま殷氏おるうみゝてま殷氏おるまを拒へし

舌州乃趙指揮きゝもとう勇ましてそひのうち
きまゝん妾をりこめさくこ殷ほうぞくのはうりことをいと
ゆこくりそ氏妻乃徐氏ちゝやうまりさりゝて殷もん
殷きこ女なりおまゝん多くにるそをめくゝて夫乃ほ
うけふおらき所殷よはうくひおますのさへその妻とものやト
ゝくりまかけ懐姙すうゝびことに私そうふ寒ゝ茶と乃
ゝもきまゝん皆おりてそぐゝほりくりそ氏のち徐氏乃殷
千りて氏ゝ〻ゝ殷るかまりゆそまさくさへうゝいこをさ
ものくるりゝくめさくいろゝ氏ゝぬくうち
よまこと犯そくみりけまをゝて命をこひるとこゝいお
ゝれきゝのゝまのをゝて殷をくれよるとゝてうやひ

と日ひさしくうりおくれ醫者かんをおこすのごとく癪治なるべくもあらねく孫ごよむすこく嫁趙氏も又寢るく看病うちわすれてそくろ

七去乃中にも妬を去とこあまた徐氏すでにかこち腹なる上よく毒九蛇心田さ淺ふして

なれかおもてにもいろくそのうつくしきをあいするまゝ胎内のまをあやまりおもくそのむくひをおもふ共とくあるかまゝにそのこゝろやさしくぬ淺ましくふかくとをやまひまのちをはらむごとくのこゝろをもちてそとはらむくひまをのがれんとせしかいなくひさしくなやみてそ

書もちてそとあたらしきまゝ徐氏とのそのまをそむきけるものゝまゝにてそとうちのまゝ孫お續してそのまゝにてそそるし趙氏のまもそのまりをうくへ一組るまてあさものしきむくひまをおもふくむるくゆへなるものへ一音國乃君文公まのへりやし細母の逸ちよまうく方こ淺院一行のちとさ秋由よ記さしく退面おりしまして秋へ叔隗季隗とのふ女と二人文公へこやぞく

よまのいせまるう季隗とは文ゑめつひ紆ひ叔隗とい統
かいえんてりまる趙妻よめあるせてか趙衰叔隗とめるら
ひとりの男子をまうけ趙着と名つけく養育そのの
のち文云女ゆへかりて伝よつきのて死趙衰と伺く
伏をしてこりけるうかと田舎よてまうけこりく妻子
なきこと國女へ伏してつるまく恥くや里ひとん妻
ゑ叔隗子乃趙着ろとまる小狄ほよのこととぬ文云
ゆよかり伝てりけさ紆ひく趙姫てこすいとろさて男子二
趙衰よめあるせらる趙姫てこすいとろさて男子二
人をおうく兄をは原同とろつけ次をい屏括とな
伏け子い棲嬰とろづけぬそのち趙姫狄ほよ趙衰

ふるさ妻ろあるろ事をきて趙衰よりまこるへ狄
ゆよ妻ろのおとすろ事をこのごろやのごひぬ何
よ今まてへむろへ治らめるあやまれ不肖よんどもいさく
ろねこさきこよるいそ叔隗いたろへんへ叔隗いし
しめ妻なまこそ本妻よまへまるへ叔隗いたろへん
ことろのあゆることころありといと
まあやふきこえをまこともろ趙衰ごいてうけこを
趙姫もまさられるゑ田こそ彩きとこのん義
那とろりんをして歌よさるらることを富貴よありくわと
ろいこれ人のへるろ道をそむきてこ治りん

とゐ〳〵とし我尺肯あり
と紀侯のゝ給ふ事あまたつゝ
その頃よ剛叔隗趙衰
趙姫とのゝこんて叔隗とは
くぐり趙衰と婚ふよさてそ
またとくごて趙衰を兄と
年の後趙衰とあと同よう
趙衰趙姫の酒を感じていう
そく里ひきまとし晋の君へ中上
ゐりゝと趙姫乃男酒ゐ
趙衰ゐちやくゝとめまよ

りゝぬりまるくらゝこれ中その男よあるまる
君ゐり信をゝまん事うゝひ
ようゝ人いたまの信よあけあへと
趙氏乃面様をし皆扉括よ
子そんとゝろくゝ上をまそん
服とゐゐゝのひその才治すぐれまこと屏括と
公族乃おまよりゝよ原同樓嬰もろ
うゝ小太まの信よのりめそくゝり
趙姫を叔隗をむへゐんん
通を乗ゐよ仰りきれとも不嫉の性ゐゝあ
て敵把のゝき分ひなるふよろくゝ却てまの寒雲

やまの一に娘の趙春と嫡子杜
と称るよ似ずより志ざまことも慈仁乃酒嗜〳〵ふわざ〳〵
き紛ひあまこも却てその子公族杜太夫とうり孫
嫡子ゆうりをうけられねこと上う況ハ年来迚
の窮乏もとのそもゆへなりし継子をめぐむい幸来〳〵
子のこんしやうとをりとむるゆへありこうまじくも施〳〵
神ごよりて窮乏をうるひ不仁よりて我み
と捨とる事古来そのあり〳〵すくなう〳〵趙娘乃
故まをよくわ況ま〳〵へまた窮乏とのそこ子孫の栄
昌とねのこそ人その心をお況やけめて道よ入〳〵
高陽乃杜昌の妻氏柳氏ハ神ごを娚うよ女ありうり杜氏

つちよ金荊とゑ作うひ女あり杜昌かことをあ〳〵
ひくちさとろよて金荊よ
けくすさあ〳〵くいうわまる
金荊があ女氏指をこうはくこ
言〳〵ごの事りて柳氏うあ氏乃指をこうはく〳〵
きりてそのむくひをあ〳〵うくめそのもち又事業とてこあ
よく〳〵てうさよ女あり杜昌これをよろこんてはくく
さいせうくきくけきに柳氏孫くく況ま連とと
らうくかまの舌をぬきのてこの舌あまこばそ
杜昌もよのろこあとそなきこの舌あまこばそ
柳氏の舌よかさいてくいうこに痙名〳〵

まれしも疎くよそよそしくすてゝおつへくなるも
うつゝ婬乃舌をきるむくひなるをや笑ふてさるも
路乃禅師の評よゆゑそさんぎーいのかーてゝ面まて
赤くそまのこまれバ稲荷いてゝれうるまゝ人、嫉妬乃ム
おくしてお加と婬の指をきり行ひぬまゝにてに
ま乃事くそのむくひをあつゝれともうれゆもこ
とんおと嫉妬ま馳んくゝ
まゝまゝのあはようつゝひいそのむくひあまい舌きれてお
作へーまうれとも祇明乃いかゝ慈悲おろく海ーまもへあやま
ちを悔ふかうり向後嫉妬乃馳心を根をとゝらすと
もゝまゝに不嫉妬慈心と納うあーおもく義一きてる

乃ーまるへーをひそれ出まゝ柳氏加茂ーく男人出
祢を地よ擲りて頂礼再拝ーて至心よあやまちを悔
悟を表ーて祈ーるに
しーて七日みちくゝ禅師乃柳氏の口を引かせて
呪ーくまゝて一尺あまりある蛇二すち喉の中よりて
えひおろく出は消よやでゆきぬ移祢ーまをはやまり
て老ゐの咒ーまゝまゝてんの蛇地よおちりかくこの也
く去もやうなく平金ーぬまゝまゝり海くありて篤く
祢的と修ーー移さめるない毛取油くゝ慈悲深くゝ成りけさ
夢覚れ一心乃衰化なまて一念の頃をくゝせーろへ
こおその形をまたかるがゆへよ妙を善のゝへすなうら地

んなりもそでな蛇んあまたこれ
柳氏の妬毒すてくわ蛇と裏ゝ腹ゆ
ござうまわぬいま天ぐつ
くそんをろうへゝ善よ
よりく臍腑かくれる毒蛇あつまて
おちつせそり柳氏一人よ
よるおそふし臍腑よ毒蛇まざりめ
きのあさゝゝきいあゝ
してあやまちを悔善
蛇乃のくゝこゝとゝあゝ
とゝるひゝ毒蛇のせめ

ゝあまゝ甲斐あるまゝ
ん柳氏うむくひよあ
ゝろ迷祢ゐきなゝ
やまちをくひ善よう
柳氏の妬毒ものひ
のりく善ふうめる
まぬれぬゝそのん
いのりそ氏志多ゝ
よりそ改め善よ

○唐乃胡亮遼國と徊ゝ

○ゆくりなくその妻賀氏のもとこを
ねさこ胡亮
の留めし乃隠紙うらくひて一つるそ
女とともくへ虹を焼くうち賀氏
の衣服をつけまつけ
賀氏ふくらおくくや思ひくんこうくせり
くりそのくら賀氏懐妊十月みちてうこおろ
け分の由こと賀氏よいおくそ蛇一ともら産のせり初
まりよみ一枚ありけまてんおうくあまた紙
とりあけつへきてお服ぼりくくとのむ
くひおるるをと思ひそくあ宿乃経帷子もた
ゆくそ記そうかはんけてそひくれい禅師着くこ云
まくへうん奴毒掏くくそくへの眼とやきぶされる女蛇
くく留一なひおん雄紙乃るるものべくそこころくる
うざひまくへは及へくと云賀氏おそれてよくゆくる
けくる一二年すぎくく汚れ
久さるゆへよそく衣服のかはりくり胡
亮まおく留くかくけまてんうの胡亮ふ
ゐくまとひきてうの蛇と乃うこ大き駭き彼
ころくめまてん賀氏の衣服をつけまつけ
の事かざりおくりうどそのかひさくよおりくわ
賀氏の奴毒きおてくるもこまれてそくどに
その衣服ぼりおまこなん紀りあまこともその福乃百さ

れ人うえそ祖乃能世ひさん弥ぬ大為大
忠乃流めくこ哥てあ志ぬくと蛇とうませそのむくく彩
とおうかーなまひもくとと設あ吾ようつりて褥ことまぬ
うまそのそーへるりまそれも雲氏その完招たく
きくに蛇とあーあそのこめて満よさへ内んまの海と
お況ようつくく猿ようそ我ひ乃がれかくそのお眼
とこーるりされハ雲氏弥大為のめまーめとーく
心ゆくくその遇をまりのもさんげーお毒の蛇心とひ
あえーー不娘乃意心とあるうみーて強隣の約ひま
こともうはそのお眼法よ通さるのこたるーひね蛇
ヒおうこ机りくこそこうせあへーまうるを徐郎の毒

も淡くさい地を御ーそのへものことなるをこれのこと大事
とんのめくくさんけのまよこうるくくまるる事の
さあーうそこつくあーまこをかーえてるもちあーん人ーも
青一そのと差ふうつくまーて褥ひとまぬう通褥ひを
為人と作ともしへき事ーあくく称ことみる況女なと
体寧ぬさう高人乃妻あきらあくく称ことみる況女なと
けるくこんな波まの乃をとかけーー女をとうへてひとまるる余
ヨとらこめ食とあをくへ泪ーこうさんと巧こけう野!
てみうるをみ通さも死せうまをんてつくかの女を
くひをとおあこう楠へ入奴宮人へのかーせくく野へあーける
う女乃志めけるゆくまやうれ女楠乃事よてようこうり楠

とうたぬる男とりかゝ枕元へ
来きる物のほう金ありなんちゝ我をうすけんこの金
とあるんとゝ云男ともも物をさゝひてゐゝれとゝく枕も
ゐゝをそしあゝりまもの金とゝり出てあゝ人のゝ
ゝこゝこの金ゝゝゝゝくゝゝますものゝく八里ひゝかもゝまの
妻妓のゝりきゝん妻ゝをおゝ
枕乃ホゝ人ゝゝのゝくゝゝゝ
の商人ゝん妻喉気をゝ
ゝりゝく湯水もゝゝゝゝ
ゝまぬゝゝいるゝり藥治乃ゝゝめゝて金淮丁洋ゝゝ
醫者二人ゝゝゝゝゝゝ

治のてゝゝゝくゝ時日ホゝよ二人の醫者ゝゝ
ゝ有ぬよありけゝゝ新ゝをゝめて出ゝくゝゝ
ゝる女一人勿論と茶ゝまりゝくゝゝゝ二
人の醫ゝゝむのひてゝゝゝゝゝゝゝゝ
きのゝよゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
の奴妻よあてゝゝれむゝゝゝゝゝゝ
乃奴よ埋こゝゝれゝゝゝゝゝゝゝ
とゝゝ水ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
て落ゝりゝ放ゝぬ今ハゝゝひゝゝゝゝゝ
ゝりてゝの喉ゝゝゝゝゝゝゝゝ
よゝうなくゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

さらばかくこそ汝乃言ふ如く冥途はとかくのみ
さてつひにまことは地獄輪廻乃さだめ
なれば又二人同て曰まて〳〵幸た希くまた汝乃如
やと冥鬼あゝ〳〵曰金淮そわ死時ちう〳〵なりそひ
のゆへのそさるくとなこうちよりのひるたくまかえ
てる孫さとゆるり丁洋いかに汝名いまざいてひゆるく
る孫もんーむうなくへーと汝なそのくら金淮いかゆふ
るる〳〵丁洋いまるへ人あ者てる孫さんじやう〳〵灵
鬼共言ふーもそうのひとうのうちうり
暇とりくひとまあくこそろーめまさ又喉とまてむ
くりあ海ーとに告よ声ふとあぐるとくくあう感應お

そろーき事なりしまへ人此毒此約ひいなー来まう多の
まめと思ひすこひ海ふひ
却てその男共ここひとなる事ひとと
よ此ふより如毒乃勉心愛ふ
思ひふーり方とそこう毒ふありと思ひありて
不癈乃本心後あれーかよへー
肝乃灵王の后つねおふとあうりまるうよ記うこみう
まるこのひあまにとれ外ふ
すうーもおうーふるすいそ記世ふよそく我み吐く
ろうーこのひうり世ふもふ
事ふ母海よりもふるりてそ兄えー灵王世とそ

やう云ふあひだく世子位さへもその定めなどおこたりもすべき事ならねばおかたくへの御もてなしも一入濃やかにあひそかくしく八年十月くまもとへ入こし給ふよりなりゆきさうの時石井甚之丞母よりてのおくり世子様へ御乳奉りそしてよ恒よ清元めまでも孫のごとくにおもはれよりくこゝろやつくへあるべきことなれば此母子のひとをまけは世子様へ御乳をはじめとしてやうくこゝろやつくへおほせつけられ其上おくへ通ひくる人ありそうなる時をえらびてはおくへ通ひくる人ありそうなる時をえらびてはおくへ礼にまいりくれ我等をもこれ程さいわひ

ものよ陽子をはじめくまもとへこしたるものどもはうくしくこゝへ御まで我ねうくおほせてをきたまんとそ嬢子をはうくしくやしなひたてゝやりくあるべきやうにとのひきまけ世子様へ御乳をはじめとしてやうくこゝろやつくへおほせつけられ其上おくへ通ひくる人ありそうなる時をえらびてはおくへ礼にまいりくれ我等をもこれ程さいわひ

元不祥をうけしめ給ひしより其主不幸にして世をこゝろさりのひめる八一乃不祥あり名よりなくて嬢妾よりある八二の不祥あり今又名あて弟と君ひ嬢子八病みこんてこゝろさりし是三の不祥あり二乃ふ三ん力ぜ及ばんさるとこゝろなき事はせん事ぞこゝろの外よ出給りん八是乃ほ仏のよ者のもち事ぞ哭氏よ不祥ぞ

かゞとをそへ給ひんいふをもくなみしてそ
しくそ共上妾がまゝ老乃母うとい石乃不孝の逆ゆゑ
ましてこれめくさし深くわさせぬ事ゆへなる事と老
のた母こそわさせぬのへまれま老の母をさる〳〵といふ諺も
出ひさんてしく我こゝやつくへいま妾の職分なりまなんう
ほんとかけ給ひんやとそこをおこれさる石かさ
ひそのくまひまるいさなれさる多まて主老た母をさのり
しむさの孫子いかゆと思しともせ君そもさろ
まさをこんかるへすかよいつまゝとそその代用をこ老紀
もさりまれい世子の母をりそひて世まよりそれさるい石の
外よいて給ひんとあるい我世よゆへまりまれ
さるい石の孫子いかゆと思しともせ君そもさろ
まさをこんかるへすかよいつまゝとそその代用をこ老紀
もさりまれい世子の母をりそひて世まよりそれさるい石の
外よいて給ひんとあるい我世よゆへまりまれ

さるい順徳をまて命をと老紀
里て世子はまんすりい水をまうそ
すてよ自教せんとさるけるをた世子のさきうめてさ老れ
しひやうくいさめのひさる石ま道をまてあひさ
その忠順乃藩をまろうひ感じてあるまをや
め給ひ世子乃母たそなこと」をこけうくめてうくまさ
ま蘭玄乃ま落書をうまを衛宗乃二順とて天下こり
ほまれをなうう来代乃も香となまり
石の不瘦一つよまうくし灵氏乃子孫さんじやうし
てその西治りさを民めぐこりようさるまりこの切通ま隊
さくその多子あくしまて孝子共百一あひさう且傳並

乃忠順なる○きて天下よかまれをあ〳〵のせりも山
后妖毒丸蛇心あ〳〵もて冥氏乃子孫幸そそく真の多
も流涎乃寡とるり悪名天下のくへ口とけず〳〵
あまき〳〵丸故事をかく〳〵不順奴妻丸横逆を於
ん奴意趣信淫乃羽徳をあ〳〵かまつ〳〵
はり〳〵まんき丸根をきりひ
あるとき事をいかゞこゆく〳〵我ををてんこをを生
きく〳〵とまた一会よりおこまりおまつ滔乱な妻と
きゝひあれこそなに何のこんなうた妻ををてんとのくく
んまあ〳〵すく義色よおぼるつ〳〵きこ流つこの
む情欲の邪夫うらくふ〳〵ゆくこらと悪

見てくれく一てんとあるまま妻をりこの理をようくまき
まん人なすまた妖毒丸念おをて不順乃なん者一
明るそのくへ一万一そのまま夫孤ちけ人すてその妻をきゝひ
あれとり或ハをそんとさくむんして滔乱なあ〳〵夫
急の毒死をていんらんかるんやむ今〳〵すり〳〵不順の妻いかの
まてまつ乃かくあるハをのれよあきこころ丸のを而
なわとんなるくいよくくのくまでこひよくくほろへてきめ
ぬのるんまた孤ぢまくをを思ひうををる
有あんきをとひうれ妻をきてひをつあんなまゝな
ひともすあ〳〵く妖毒丸蛇らとんつけ

てうしゅんきゝふくして却て離別乃もとひうも次
めへ〳〵おまき〳〵乃狂ひやうをよくゝ〳〵始毒乃くわまさ
まの猛乱いや増〳〵なりてやひ事〳〵不叶乃有
んぬのちまいまの猛乱うわ〳〵すゑむりのなりとこゝろ
まへいんらんときゝ〳〵りん〳〵
不癒の本心をはうふかをへ〳〵むり〳〵或殿上人田舎
くさりの法るてよ老女とお具〳〵そのほうれうる彼
とさう紀之そ〳〵〳〵とくゝ〳〵よう
おゝ〳〵めさんすゝめんかり
とゝ〳〵なひやうくゝゝれそり女房すゝも恨こゝろ
義そくゝ教のゝとくゝそよゝせのゝ

けせてゝそあゝくゝとゝ〳〵きのうる
そうもゝ〳〵めそわうおのゝひめ超女このゝゝとゝ
てたゝさかれそまて教よゝけくるゝ乃ゝまゝ
有くゝさゝらくゝよそあゝ〳〵ゝ一ほゝ且事乃
板とんまのゝ〳〵せゝゝよいかそ
きゝくゝさ所ゝゝひうこゝろ
まゝ〳〵せくゝ年乃ゝとくゝ
くゝめさまんゝまうゝへくゝ仮
てうかくゝてなるへきてゝおびゝ〳〵
ゝとうよおまき且ゝ方乃
廊そて役をゝうゝ〳〵北方

幸もみうりけまたそのひくくそうこまでかれて
ゆりのひぬ遊女もんそうひよあそひさ
りつまさくへてそなさ事ともそこけう又武人の乃
妻とも敢ひあさなりしうえ妻をむひくまひすれ
ろう今此妻と一重へそ〳〵幸の
妻此ありけるお秋の廉乃なく寿きこえけう縁
まきてのみかと幸の妻よ云けまいは此事に
我も廉まねそくよ言〳〵今そようにて
はりきひと云けまいわりるく兄〳〵て縁乃妻我
あくりそこみうりあ乞かくりされいまて〳〵此故事と
考ふまよすそに離別よ幸乃妻よ
まめやうる功徳よまくく作并よ僧差同穴乃え
となまりり〳〵まそ〳〵妻乃妻よ
ありく離別乃憂よ志けう〳〵は
海そまぬ女の縁をかくひ
ひとまぬう女く功徳を是
すき事なりは現りいかあ
らさまともおるひよ欲よお泊まて兄
えを毒地乃苦ひよ志ひ
一〳〵支不義学道乃濫乱あるときいうるまよ
やれこひ〳〵妻乃男乃
或いと或いと或いは一門或いは

浅ましくて物もこそ
まして四五きさよはあらす
物すごくて他人よりあるとこゝせさきこゝろ
わづらはしき孫の事
とゝもつをはきくこゝろ
うんとあまた聖人七去乃法の中
とあまたしこれをくくして
他有こゝろ事こゝろ
をとこのこゝろをとゝもへきこゝろ
面なりその上に男
ゆくこゝろんこゝろ

むくひとうくる事あるへきことにこそ
事拠一原乃理
かくるゆくよねことて人
男子にこれとも畢竟
あり様さまんこゝて人
ろくるゝはれとも
いまるあるそのう人乃
も同こゝ人の生
多人寄
ゝはせんかくあこゝて
一門の会

あくれかする境界あり我身わろき彼うまやうがい
よのくにのそもくうのいかるくへきと思ひもくへ
んあくん人いおいまじむなきけぬく教へ志うの為と
情あくまでこころなくともかさいなこなや
まんよ思びてくやくく仁恕乃本心と興起くて
陰騭と作こめくきことそのくく乃大事なるくく

教子報

教子ろろふ道とをくへて
ろ事なりろれ的漣明ら
むくひとうけ死ていれ
まこなろれ的漣あくろ
あくゆへなととひそのろれ福ろうすくて貧賤
なりやくへととろれ書まやうみくく歎乃
あーろ安楽なるものあり的漣くりまこ彩
ん海これきゆへなととひそのろ乃福ろあつくく
て富貴なりといへとも孝書まやうろさまこ

親乃ち祈りて曰く、汝よろこび安まるかせこゝろの一ま
ゝの通ふらるれバ衆生天乃福ひとうくる
ま一子出家すれバ九族天下生死こゆる理り
り出家しくゝ云ハ聲とそむくと云ふ
あゝ次的通仏性と的らて世乃ひとまぬ
れのうゑと出家とも云出世乃明徳
くるまで一し法ふ僧の時書をのこいとゝ
ばうりみて八生実乃福ひとうる事あさらん則あれ
歌世俗生ふりふかま書乃
とゆくたすることりあ
ゆゑをむくひとのくむとこゝろあり
ばとくくうえまくとこゝろ
共も賊と智あるも置
ふと雲せる法をゆ一
ゑよ寶とあるへんこと
あ道と天下第一乃寶の
よ法て一世乃のくうとあるへんと
命ふくうとあるへんとのこ神うひて性
寒二あり人くれ心の事
の寶なりこゝ道と性
寒なりいんとこなる事て
そのん常ふ世とおもひ

富も福もなくして、あつまり子孫もあれよ
て繁昌し、栄耀一栄華のみして天より生じて
楽田ひろまくたなる功徳あり宝珠
一の玉と次金銀珠玉天下の人皆
云ふ第二乃至そうあり
なる人これをうまもそれ福ひめてくて天下の人皆
うれめくこにうへり明徳くをして是をうま
もその男乃善ひとあれ或はあをうしう
る人覚ひあまりおこまり無欲を天るの富貴を
うまられ重大的徳くそれ国を失
ひく田夫野人乃福ひまをそれ用る人のお

やまりあくして奥乃とくも徳なをしまる人なりまのこ
あくて世界の宝と云ふ世の万用のまま奥のこ
的徳ふ悪まよ労まる奥なれい天下第二乃玉とい云也真
上あまこ奥珠の的徳ふ人こ具足乃おまも上天ふよ
里下廃人まいくり上聖人ふもとまでそうふ的多り世界の宝は天命乃福分ふ
まて人とふ得る事ふあくこしれ福ふなけまこて
乗日ふひ我ふ東奔西走してもむふとい
てうもうれ甲斐ふ一志ゆふ金のゆつりと受
て活ふくく奥窮よくる一ふ一銭のゆつをうけふる

孤(こ)獨(どく)の人(ひと)ハ一(いち)ツの事(こと)を思(おも)ふに眼(がん)おのづから明白(めいはく)なり
富(とみ)の勝(まさ)れるハ貧(ひん)に劣(おと)れるハ何(なに)ゆゑぞと考(かんが)へ見(み)るに
富(とみ)ハ人(ひと)の為(ため)にハ成(なら)ざるものなりとの理(り)を悟(さと)り
とゆつくり考(かんが)へて天下第一の富
豪(ごう)となり威(い)ふるひ勢(いきほひ)ある人(ひと)も
貧(ひん)なる幼(おさな)き人(ひと)との差別(さべつ)あり幼(おさな)き時(とき)
ハ父母(ふぼ)の根本(こんぽん)と教(をしへ)ずして
子(こ)の為(ため)ニ善(よ)かれと思(おも)ふ事(こと)ハ
第一なり妻(つま)ハ
心(こころ)ニ
る事(こと)ハ
なるべく

ふるる人(ひと)のものをわきまへざるて幼(おさな)
おのが儘(まま)より外(ほか)へ出(いで)ざるまでハ
あるよふにくそのうちから
ものゝわかくなるとくに幼(おさな)の時(とき)
むるものゝ為(ため)とハ
ま乃(すなわち)氣(き)随(まま)ニ
ものゝひ立(だて)るまでハ
ハ教(をしへ)ず習(ならハ)ずも
まをそこにおやまわりの
ゆまこゝろをいそのまゝ
教へいまゝむへ

ねんごろ事にもてなされ、とゝめも引のある事なり世界
人は我りをわきまへるによつてそのまゝ我儘を
一ぱい言ふ事であるまゝ利根ありとよろこ
ひおもくいよ〳〵賢ひまもやうまして有一或は兄
弟なんど居ぬるときは我ま我ま是は親よりの
なくくたいまゝてこそ事ひねむのとひきうこ
り或いは衣服をとに重ねもあるこん
なさまざまきるどたいまゝ食物もそのまゝ
こゝろすま我そこれなる人へ数一のまゝありて
なそこれけど附そのまゝ理を付てかまゝとうこん持
ともうこんをもすてそれよりこゝろひく人

そうら人とそこ〳〵かよ根尻の根をひこうこんあるひ
ひさと詔りて人と欺く持変り私をひこうこう
あいひさをおそろしきはくりとこれのひさこれれ
としておびへおそれよりそ多い験く病の根をひこうひく
ひこうこくおへをもこすそれより悪念をひこうこ
ゆく〳〵明日をくますあひくまあひく
かそへこうこひくりをとうこくのおて貪欲の根ひ我慢
のあい根尻乃賢ひ事ひ猪あひ人とあそこうのや
こむ賢ひなこのさこうやうよ男ん年一ぬ
かりそあれさかまこよし父母兄こ老こる人よんや
ひのへ乃ままと教へほとあく漏洩をやこうん人色こ

成人一てのおゝやの明徳ぬりうる君子ともあ師匠
とゝ一こ儒道乃心学とゝ一へ知ることゝ一こ
うゆ。の王まと勤一才智芸能なとハ生ぬの
業用ゝよまゝ一成人の日二教ゆぬ
とゆうおすゝおゝよ儒乃の心学ニのミ限ゐ
かゝむこなるやうよきこえいいめ日ゝとゝ三毫
とゝ小明徳とぬゝうひもゝ仙佛乃二
教ハその法世ゝよ便りあしくうれよ王夫れ入ゝゝき
和あり儒教ハ世ゝの日用よそくそのまゝ
へきいめくやすさゆへよ世ゝ通用ゝ学ゝまハ儒道
のこゝろこの。論するゝりひゝめゝ私言よいおゝ

王季ゝ后大任ハそれ佐ゝろ端一誠荘ゝし慈ゝ
くおゝ一ゝ一ゝ一

昨くるゝ若ずまの男ぶりもいくてし
三国よむさとうの名と乃と耳よ邪うる鉾と
きう次古へ乃賢人君子物忠信乃故事
と記せる草子とねごゝい母でのゝられとそ
教乃大聖あり生るうすること形もよく書通
藝しすくれあん事とねごゝい母でのゝられとそ
胎教よりのくる乃宮仮もよく書もすく御
祝りとまきますへさゝ胎教よらゝともも
なをそれい胎教をそのよをしゆう根なられよく
飛めさりまするへきさことにころ
亜そ乃母ゝい法そうくおりしまて母仮のくよう

すよすゝへのひろり亜ま
ごうりよ只今のことろの
阿給ひまれい母ゝあんち
給ひまるうことなの下よ母ひ
とて胎内乃まよさへをし
よ知えひゝりする所よあ
乃根と引うこうひまをおさ流ゝられと悔こて
ふめのこと寛とゝのへ
きり書るへとて亜ま
わゝさるのと申ゝのひ
ようひ道と学びのひ

孟母こゝろかわらく強くとゝ
よれ孟子ゝ岡のひろくいと勇
八ツゝも作きをくまゝと孟子あくまの処りるゝさり
きれハ小刀まてもことりて海のそのゆゞんあるハ
ひさてさるもさきるふこと
めのひぬ孟子おとろきたそれてしひそすゝおそのゆゝと勤
て隣よ大賢とさり給候乃賜爵よあつり多世心配ん
事りとうけその文母も半くこひる犯事とうけおひ
ゐこ孫に悟士乃業死めくくこうくゝさりそり
孟母ものことひるる心撫よるかくくこうる義
事りまとそくくれもこのゝと脈とゝてこる

の我慢根あゝそひそのひむ根貪欲乃根瞋恚の根ゝ
とおるとりめゝむう根るど残ゝこうゝゝゝさん
やうよ勇ん第一なり孟母のそこをさりめくい給り
母ねぐやうよ思りるこゝゝゝ絶をゆゝうまち
こゝの天下第一等めて人乃第一等なること我
ゆゝうのねさまゝ孟子乃言ゆゝ如意とゆゝう
母ものんこと我勝ひのゝこゝろ苦しきるりこと
きおくよ消しも興よ家てひことありそのこと
乃氏嘉保ゝする事ゆゝ我ゆゝるおそり
孟子乃触業をまさゝ嘉保ゝ跡よ母ねゝひ
うあつりこゝをつゝとゝくゝゝゝゝゝ

孫うひをしむろごころへ
程子共に母侯氏を孝順乃速栄
うりくり故て大中公もの妻共屋うち
しめうへ礼儀いとおごそかやまひのひをれも
侯氏いよく慮りてすこし
み幸ともうるうす大中公共
おこなひのことまでうるうすやおさめ給ふの法
ありてとき一ぱう婬妾をきらひ
こおるもむらうらさるむ事をきらひ
ふさのみゆへ今て屋つこといりせめ給ふしおれ
運命ふ窮ようりてきのやうきうり

とも一気同体ふ人をまし理不盡よせめきい時
むへき理あり心すうあやまちいれもあらへき
事をまもうれしなぐあゆくをすうを強く戒め
給ひぬくあゆへよ家内みな和睦してとこしへ
門戸をまもよあるをしへ給ふ
ぬく道ありて侍らせすこもあやまちおかれ
しるうす戒めとうめるあやまちあま
しふ中公へうくひて
給ふす常くへ語りの六ふ不肖うろはもし次
母うへ乃姑恩の愛よ如ぼまてそのよれるもと戒め
せひるこをきうへ給あまへ乃くへまをおもひかくして

ゝ〳〵めざうのへりとそ始しれくるかくある方
ゝ〳〵流行的道伊川幼女乃衣服飲食ものおのそ
ゑむとうもろ〳〵ひのゝこゝろおのゝまゝえゝろ何へなす
くれくそんしのひゝ又大中云大知あれゝうおし
ゝけまこし周子此大賢をカんきりて二程とつゝうそて
心ざきとうけゝめゝ二程又の舎ゝゝきうひ周よと孫
ゝゝて学ひ道ゝ大儒とそなり道まといさるひゝめ
のひゝうし善世の儒家となり名儒おりくその門
よ物ゝく伯爵の封とうけ孔廟の従祀まあゝうゝ父母も
至窮乃孝養をうけ治世よゝゝくまそて往母乃歎を補
賢ゝて天下此奉とこなり給ひぬ

二程乃うまれつきのつひ
ゝの油性とやゝう、母流のおの
又大中云乃油の師とえゝ
さんへうの大油乃成功かゝ
おほまこさるゝなへ衣服
ゝへ道油乃師とえゝ
衣へいつまこし有雑現
ゝるへきこゝろゝり雑事
為一大中云乃油の師とえうひのゝ人の常の
人よりこれで迂潤なるよ似これもそのゝ名
うゝ富貴をうけ給ゝと利禄乃ゝへよ趨ゝ

て千倍せりよく年ごろに至るまで母
夫れみづから死亡あるよう語りき
母さくよろこびかぎりなくこれ以前のごとく
不孝をおこなうありいろんとなき事不孝をか
るる次第乃不是あるよしおこまり祖母の
讒訴ありてまづ此事もうひのひめるごとく
孝をおこなうのなりき陶侃学ぶよう仕きたう
陶侃の家代々貧賤なりき母うちつどまるひとを
侃縣吏となるて奥深乃なりよりき母の方
へ勲をおくりてそうり母うけとりて戒めるくい
りとりてこ侃乃勲とをよろこびひとを来るをろこよあ
ひあるへ母かくけられるぬるまま
よろこだくめんと思てくさ忠義廉直をもつて
ますへしとはきしく云とくれより陶侃も
と為るまるぬ人るまでも母のいましめを守てゆく
忠義廉直とてけまうて
都督となり富貴天下
貧を安し道を貴ぶ
ろうりまう陶母のくれしきのこころふく
ひすくるれとうりよ

隅乃ちをしへ乃あるまでにこれよ
りくそのよ豪傑とをりこ代くに乃ち奥様を招て
都督乃位よりのがりめまでハ毎ごも留きこの寿者と
うけらまこの境よりの孫のさうてんをもしくみ
乃とをもしへさるにまみようつく奥をもこしるつ木
○呉賀乃母ハ時のくそのよおゆくおもおりけるの
時呉賀なぐさらと称りもる次でよ人乃うみ事を
云ーを母きくつけくこのかりて呉賀をむらく
ちっくり母乃ともこれくんくく時の興よりてしまず
くくへ乃ものをくるーかまーきこの地と
云けまこを母大ひよまりきていりくまるハ人のぬとか

くて人の苦とあくるとあんきく人の苦とあくるまそ
とうくくたへ乃ものをかくこくへいくあさ
ます我しまくーつーみと指とのへともかへ乃らと一あり
ていまきこおくりぬまハ角ハのまーむるりとう
あくとるぬもよまくめさりられ
呉賀とおりこおまくくつくしこて孫よ名人と成乃
キうくしりへくけと
くありてもかへなれてるぬよとまりとハう
笠悟夫乃もまうまこるうらとせ
この母とつくらとせ
さるいあるまー郎をーへ
こけまーるはまかきこあ

やまひ我に改発吾ようやくにさるべきよ
勢せんとそうくめでたくもとれを
○虞潭乃母孫氏きわうて寡こうりょうともかうくち
うつく歳とあるを虞潭幼女乃時よりも忠愛とも
てきょうくしげまして姑息のおもひすくにこそ
のたまへとはこれこそ虞潭が為に衛康のおもるとぬて杜陵
ぼそもをうりうり虞潭が母ぐそんとけげますの必死
かむちんと退治一をくい内母ぐそんとけげますの必死
の義ともして兵すこうれくるよ孔愛と
自ぐくをとりてそうの潭そくく
あるかうへ蘇峻がむちんせ一内ご呉潭いくさよ

令と蒙わそれい母いまし一内ご忠臣ハ孝子ハ
門よわあるとおん渕うおうすのらをすて軍功をそ
くまおよむてへ一我先たてのこれうのを毛乃も必ず
かくへうすと戒めをのもの内史王舒その子弟
允とのくさよこめてい孫氏まる
潭よ云けるを王府君乃子息ハうへのくきたまうひろ
ゐをハ渕うそとあよをくへき者あ一とそけます一仆
きし潭すからそのよとてうなんうく蘇峻と退治一して大功をそてめま
く虞潭ハ武昌侯よ封せ一ま孫氏ハ金章紫綬と
を奉令ゐうく月あ及渕うへらま一そう

孫氏は婦人なりとも大義と思ふ死とを
乃ことよくすまう家を亡しまことにあるけまこは
子孫もんしやうして業を乃ひとうまらまこそる
事一宜なるう弱き者仕女の習ひとて軍場へゆきた
死ものーきこものも死すると思ふ一その上令
と第一の事と奏と感てと大義乃ためまことまでした
うれん乃死期ハ生とうくる初よりくまこそ天地
非ぬもみそぐりよ喜ーのへ事ーあるいなきまして人力
とやうめうへ妻令乃招を明時よあるあるよ大義と
おのんーぬの庭とぬうおすまして軍陣まありてもハ
業乃大死ものへ大義よりひさ明庭とくまん明へ

ありても心業乃大死ありは理とかくまこと
ま母ことに孫氏乃心とそのくとすへーー
竟次乃母陳氏常よ大義と
明のつとも歯よをかけまりそり竟洛河南乃太守
とるり入部してぬーれくる
小志とこありやと問当るぬ母のもても氏をもく
く陳氏いれか亀久まてはいくことともまく迫ら
ある時竟洛と客と的とをかけるよ竟洛ととりす
ぐまーとの乃上ぬるまバ誰へも及よのの一陳氏を
当て妻洛とまひていまーー
明よ忠孝乃乃とのことをーへらまきまるとそれ設我

るゝにいさゝ紀蔓能よ精とほてゝくゝよ面さゝくゝのみ
こゝ志とそげこめる事ひのよあさまりそれ蔓うよそ
けます精力とやん春のの乃よ男ひみしまみこうもあり
民とすてゝ改とをゝ一教化もよのつのあるまゝゝきに又
乃をゝへよろひさて小蔓よ却まてあることと不春とそ
不忠とそ言語道改るりとてさやうそくのかざり乃お
改るかそますてさくおまきそわかくてあるをゝへもくゝ
るまてゝ要容よく作くゝして徳業人よすくれ節
度改と云大宮よのりり母い奏国史人と封号とう事
度まゝぬ男史度そよあゝゝよろ

小蔓と満能とて通徳を茅一式とそうとゝ

面てゝふ老みのをゝ〈まりよのつれ人ハ男ゆくも
これ見識あるをすくるりまくくうれる乃蔓
長するこおまゝて世るよれことくよろこびさうて
布さくうれる乃満心をゝ紀改くるのこりりいて
むや婦人ともや親さくうる人人ふ小陳氏れのと心や
せハ家てふ小孝子国ふ忠臣ゆて国家世衆
ある人ゝ作まゝ陳氏乃のは本素せうれて
おるくゝ迷て寛をうるゝ事なゝて記れ

伊勢崎 上谷 西新町 小暮